

6月研究会、岩見沢で開催

事務局 吉田

ACE北海道支部6月の研究会は、1年ぶりにエジプトから戻られた宮下先生のご厚意で、北海道教育大学岩見沢校で実施することができました。岩教大出身者率の高い北海道支部、懐かしさと



遠隔授業の部屋にて。んーもー使い方わかんない

新しさの入り交じった状況での研究会開催です。

はじめに、一通り自己紹介を済ませたあと、岩教大の施設を一通り見せていただきました。今年3月に導入された遠隔授業のシステムは道内の教育大学5校を結んで、テレビ会議を行うことが出来るシステムです。授業者や授業風景を切り替えて見せることが可能で、現在カリキュラムを策定中とのことです。

(DPCのデモ)

【荒島】8月から光ファイバーが入りますが、その前にデータベースの教育利用推進事業に応募したところ、実践校となった。日経テレコン21のデータベースを通じて各新聞社の記事データベースを検索することが可能だ。アドレスの割当数が期待より少

なかったのは残念だが、複数の新聞にまたがって検索をすることが出来るのが便利だ。利用に際しては知的所有権などの面で、若干制約がつくのと、利用に関する報告が義務づけられているという要素がある。

実際にまだ子どもたちには使わせていないのだが、教員のなかで運用をはじめている。データベースを無料で利用できることは



荒島先生、古巣にて。

画期的だが、情報の量が膨大であるため、その取捨選択をしていくことが難しいだろう。また、データベースの提供社によって利用の仕方が若干違うので、マニュアルの取り扱いには注意が必要だ。子どもたちが授業の中で使っていくにはまだいろいろと工夫が必要だ。

(岩教大の取り組みとエジプトの話)

【宮下】Webを使った授業の話とエジプトの話をしたと思う。

今使っている教室(第2講義室)は、ISDNや専用線を引いてきて、公開講座などの授業で使えるような形にしている。<http://m.iwa.hokkyodai.ac.jp/zawa/1995>年の後期からオフサイト教育用のホームページ「WWWクラス」を構築しはじめた。いろいろな形で教材の蓄積を進め、エジプトにいるときはこの枠組みを使って、課題を出してホームページを作ってアップロードしてもらおうといったような授業を行った。

エジプトでは理数科の教師用の指導書を作るプロジェクトを行った。短期間で指導書を作るために何が必要かと考え、DTPで作ることにし、オンライン制作なども視野に入れて作業した。エジプトの現地の学校は30年前の日本の様な感じであった。

(玉川の話)

【清水】前回ご紹介したChatNetのアクセス状況が先月の段階で全学の85パーセントに上った。



二回連続出席。皆勤賞も狙える位置にありますね、清水先生。

カナダのバンクーバー、ナナイモというところに校地を確保し、ログハウスを建ててT1のラインを引いた。自然の豊かな、非常に良好な環境で、農学部の実験農場や温室の設備を作って、現地の大学と共同研究を行っている。今までは写真を撮ったりして交流を行っていたのだが、前回かでする27で面白いシステムを紹介いただき、早速導入した。

横河のWebイメージサーバをカナダ、日本双方に据え、相互にカメラを置いて互いに画像をやりとりする。これだと画像だけなので、サウンドステーションという電話機を使って国際電話でやりとりをした。ちょっとした工夫で安価なシステムが構築できた。

また、授業の中でアゲハチョウの羽化の様子を飼育箱と時計と一緒に画像に取り込み、自宅から教室を接続する、ということをやってみた。JPEGのファイルで経過を自動的に落とすような仕組みも開発中とのこと。

エコプロジェクトをいくつか取り組みとして行っているが、その一つとして豪州で行われるソーラーカーレースに参加する。日

本からも何らかの形で参加したい、という要望があり、Webイメージサーバを使ってみようと思う。カーバッテリーでサーバを稼働させ、インマルサットで64Kの回線を使って実際に中継する、というような取り組みを考えている。

(ニコンの画像データベースシステム)

【笹森】デジタルカメラの普及はめざましく、2メガピクセルクラスのモデルが続々と現れてくると、銀塩カメラのユーザもかなり食指を動かしてくる。新聞社の画像集配の仕組みなどを通じて、検索と閲覧が容易なシステムを構築し、「PCアーカイブ」という商品として開発を進めている。入出力や検索が平易、アプリケーションからCD-Rに焼き付けるなど、利便性を高めている。

(デモ)

(授業に役立つホームページ)

【武田】授業に役立つホームページを作成したいが、ACEの方で作業を出来ないかという依頼があった。いろいろな形でWebを集約し、onkoの木などにあげてまとめていきたい。

(バーチャル雪まつり)

【水越】毎年バーチャル雪まつりをやってるが、今年は若干いろいろな動きが出来るような予定で、今までやってきた取り組みを、総括してまとめ上げていくようなことを行っていきたい。コラボレーションの技法をこのような現場で実践していくことと言うのは難しいことなのだが、最後まで雪像を作り上げたときの達成感というのはかなりある。昨年まではWebNOTEclipなどの汎用のツールを使ってやりとりをしていたが、コラボレーションをより円滑に進めていくようなツールの開発や、参加の仕方がよくわからないというような学校に対してのサポート作業など、いままで出来てなかったようなことを検討していきたい。参加校の枠組みを拡げていくことが、大きな成果につながっていく。

(そのほか)

【武田】<http://onko.ncf.or.jp/> オンコの木 사이트もいろいろな機能などが増えてきて、有用なものとなっているので利用して欲しい。

【荒島】初めてホームページを作った頃からずいぶん変化してきたが、いろいろな意味で最初に立ち返るようなこともしてゆきながら、進めていくことが出来るのではないか。

(研究会ここまで)



鈴木先生もはるばるありがとうございます。

教育大の学生さんなどを含めて、地元岩見沢からの参加も多数あって、有意義な研究会となりました。このあと、会場を岩見沢市内の寿司屋に移して懇親会、更にそのあとは郊外にある「ふるさと毛陽メールログ」に移動し、深夜まで熱く教育談義や組立パソコン談義を交わしました。

参加して下さった皆さん、ありがとうございました。

第6回マルチメディアバトル 開催！

事務局 吉田

北海道支部では設立以来、こどもたちのこどもたちによるこどもたちのためのマルチメディア発表会『マルチメディアバトル』を開催してきました。こどもたちが授業や様々なシーンで制作したマルチメディア作品を、先生が持ち寄って発表するのではなく、作ったこどもたちが実際にデモしながら成果を発表するイベントで、過去5回にわたって、いろいろな作品が発表され、それぞれが素晴らしい評価を得ています。

98年の2月に開催して以来、しばらく間があいていましたが、去る6月11日、「北海道テレコムフェア'99」(<http://www.telecom.co.jp/fair99/>)という情報通信系のイベントの中で第



道都の学生による「北極星」のデモ。

6回目を開催することが出来ました。フェアの会期中、3日間の中で一番の来場があり、関心の高さを感じさせるとともに、主催者側を大いに喜ばせていました。

今回の発表は、道都大学、札幌ソフトウェア専門学校、アトリエ・アイリス、札幌市立清田中学校、札幌市立福井野中学校の5校で、学年も目指してることも多種多様なメンバーが、武田支部長の司会の元、思い思いの形で自分たちの活動と作品をプレゼンテーションしました。審査員には、テレビ北海道の加藤常務取締役報道制作部長、デザインなどを広く手がけているマッシュの工藤社長、そして音楽とマルチメディア制作のラプトの古賀さんの3人が当たってくれました。

道都大学 (<http://www.dohto.ac.jp/>) は経営情報コースの学生が「北極星」と名付けたソフトウェアをデモしました。このソフトは、小中学生を対象に、夏の星座をより簡単に見つけやすくするために詳しく、分かり易い解説とともに、簡単なインターフェイスを組み入れたものです。また、課外授業などにも使用できるようにノートパソコンでも気軽に開けるようになっています。星の観測を通じて、学年の違うこどもたちや先生と生徒が交流し、ともに学んでゆくプロセスを大切に考えているソフトでした。

続いて、札幌ソフトウェア専門学校 (<http://www.sapporo-soft.ac.jp/>) では「デジタルコンテンツサークル」のメンバーが登場し、活動内容とメンバーの紹介をWebを通じて行ってくれました。ひとりひとりの得意なこと、興味のある内容をフラッシュのアニメーションを使ったりして特徴的に表現し、いま取り組んでいる最中のこどもから大人まで楽しめるメルヘンチックでインタ

ラティブな「WEB絵本」シリーズ1作目のさわりを紹介してくれました。今年度から活動を開始したサークルの初お目見えとしては充実した内容となっていました。

札幌市立清田中学校では、やはり今年度から誕生した「歌って踊れるマルチメディア部」が登場し、部活動の立ち上げ、自作のDOS/V機製作の様相から、ホームページ作成、中学生向けデジカメ研修会、見学旅行の取材など、たった2カ月のうちに繰り広げた怒涛のような活動を、PowerPointで紹介してくれました。ネットワークを使った情報コミュニケーションを歌って踊りながら明るく広く普及することを目指して活動をしていくそうです。実際に作ったDOS/V機を掲げて見せてくれたり、工夫したプレゼンが印象的でした。リフレッシュレートの関係でPowerBookからの出力が上手くいかなくて焦った焦った<事務局。

バーチャル雪まつり等の活動の中心としておなじみの造形学校アトリエアイリス (<http://www.daflex.co.jp/iris/>) では、「めざせ、アートマスター！」と銘打って、彫塑や油彩画などの自分たちの作品を、実在するギャラリーや、美術館の庭、マンハッタンの街のなか等に架空の形で配置してみることによって、自分の作品がもし、そのような空間にあったらどんな風に見えるのかを擬似体験したり、自分たち自身をモチーフにそういった写真の中にコラージュすることで日常生活の中でアート作品を身近に感じられるようにしたり、また、自分がその中に溶け込んでいければ、というとても豊かな生活を感じさせるものでした。

トリを飾る札幌市立福井野中学校 (<http://www.netfarm.ne.jp/fukuino>) では、マルチメディア部が取り組んだ二つの作品をデモしました。一つは「三岸好太郎インターネット美術館」で、北海道を代表する画家、三岸好太郎の短い生涯を追いながら、作品のなかの素材をいろいろと動かしてみたり、作品の見方を変えてみたりすることで、根底にある彼の芯の部分を変えてみることを考えたそうです。

もう一つは「バーチャル動物園」と題して札幌の円山動物園を



立ち見も出ました。はい、背中がじゃまなのは私です。

訪ね、色々な印象をCGなどを使いまとめたものです。どちらも札幌市内にある施設をテーマにしたもので、身近な素材でありながら無限に広がっていく想像力のすごさや観察力の鋭さを感じさせるものでした。

今回は5タイトルの中から福井野中がグランプリに選ばれました。賞品はYanoさんのところのWin Mounter、きっと今後の作品製作や活動に役に立つことでしょう。北海道ではこういった活動をベースにして、デジタルコンテンツのコンテスト「メディアハンティング'99」(<http://www.aurora-net.or.jp/event/hunt/>)の運営に協力をするなど、様々な成果が生まれて来つつあります。

それでは皆さん、また次回のマルチメディアバトルでお会いし

ましよう！

今回参加しての感想

【道都】マルチメディアバトル初参加ではありましたが、学生たちにとっては大きな刺激と感動という収穫があったようです。福井野中の生徒たちのすばらしいプレゼンテーション、小賀先生とのディレクタ談義。バトルの翌週「先生、来年に向けて活動を始め



道都の面々。やる気満々のようだから新聞も期待してるよ

ます！！」とプレゼンターだった齊藤君は熱く語っておりました。うん！いいぞ！（野口）

【清田】今年清田中に移動して、情報教育をどう進めるかと考えたときに、「部活動」しかないということに気がつき、平岡中からこられた黒田先生とマルチメディア部を作りました。活動場所は倉庫を改造し、ACEやPC-Rの協力で機材を集め、自分の持ち合わせの部品でwin98が動くコンピュータ作りからはじめました。今までインターネットが使えるぬるま湯環境から逆境に立たされ地に落ちた気分は、一気にやる気へと変化しました。今までの活動が支えとなり、さらに清田NCの協力でこれまでに区内部活生徒向けデジカメ研修会の開催をはじめ、今後は郷土資料館のデジタルコンテンツ化や夏休み合宿などマルチメディアを活用した活動が動き出しています。今回のマルチメディアバトルへの参加は時間がなく準備も大変でしたが、パワーポイントの使い方を指導して下さった支援者がいたので完成にこぎ着けました。今まで描いていた「学校への支援者」ということが現実のものになりつつあることを実感しました。こどもたちもはじめての発表会参加で優秀賞をいただきさらにやる気がでたようです。今後もこのような機会が増えることを期待しています。

現在はこどもたちは今までやりたかったことが一気に炸裂し、毎日遅くまで頑張っています。「歌って踊れるマルチメディア部」の名前の通り、21世紀に生きる人の育成が出来よう今後も活動を続けたいと考えています。（尾崎 廉）

【アイリス】発表前に何度か練習したので本番はとちらず上手くできました。はじめは嫌がっていた発表も本番となると度胸もすわったようでなによりでした。こういう発表会は年に1度でもあったほうがいいですね。他の学校の発表のことも帰りの車の中で子供達の話になっていたので、いろいろと刺激をうけたのでしよう。

本当はその場に、実物の平面や立体の作品を展示しながらやりたいと思ったのですが、作品のいくつかは持っていきが大変なものもあったので今回はパスしました。しかし、次回はもう少し上手く準備できればと思っています。やはり、実物の作品を皆さんの目の前に示してやってみたいものだと感じました。（水越）

POEM'99 開催迫る！

ACE夏の全国大会「POEM'99」の開催が、8/6、7の両日に迫ってきました。今年度は初めての東京での開催で、町田市の玉川学園を会場にお借りします。実施プログラムがほぼ固まりましたので、お知らせします。

題目を見るとお堅い研究会かな、と思わせませんが、実はスーツ・ネクタイは基本的には禁止で、いらっしゃる方には何かしら参加していただいて、楽しもうという「お祭り」なのです。北海道支部からの参加はプライベート・ツアーを組んで、割安に行けるように工夫したいと思しますので、参加を希望される方はお早めに事務局へご連絡ください。(aoyagi@hokkaido-np.co.jp、011-210-5506)

ACE「教育とコンピュータ利用研究会」

POEM'99 in Tokyo 実施プログラム

- ・テーマ beyond classroom「教室が世界」から「世界が教室」へ
- ・主催 教育とコンピュータ利用研究会 < ACE >
- ・共催 社団法人・日本教育工学振興会 < JAPET >
- ・後援 文部省、東京都教育委員会、町田市教育委員会、玉川学園

- ・協力 障害者とコンピュータ利用研究会 < MES > , KIDLINK
- ・協賛 アップルコンピュータ株式会社、島津理化学機株式会社、ヤノ電器株式会社、株式会社毎日コミュニケーションズ、日本アイ・ピー・エム株式会社、アイツウ、株式会社アスキー、全国大学生生活協同組合連合会、以上 < 6/30 現在 >

- ・会場 玉川学園(東京都町田市)

スケジュール

<メインホール(視聴覚センター講堂)>

8 / 6

- 9:00 スタッフ集合・打ち合わせ～準備
- 11:00 (昼食)
- 11:30 受付
- 12:00 オープニング
- 12:20 玉川学園小原学長挨拶10分(Honolulu Punahau Schoolよりテレビ会議システムで接続)
- 12:40 事例発表(国際理解)玉川学園(Honolulu Punahau Schoolよりテレビ会議システムで接続)
 中学部----大谷千恵先生(玉川学園全人教育研究所研究員)
 「中学部英語授業における異文化理解とOn-line授業の取り組み」
- 14:00 事例発表(コミュニケーション)同志社国際高校
- 14:50 CMタイム(各教室の案内)
- 15:30 基調講演1「新指導要領と情報教育」
 山極 隆先生(富山大学教育学部・教授、元文部省初等中等局主任視学官)
- 16:30 質議応答・諸連絡
- 17:00 終了

8 / 7

- 9:00 スタッフ集合・打ち合わせ
- 9:30 受付開始
- 10:00 プレゼンテーションタイム(順不同)
 - ・MES
 - ・MESshiga
 - ・滋賀大学教育学部附属養護学校
 - ・ACE 関西

- ・玉川学園小学部----渡瀬恵一先生(玉川学園小学部教諭)
 「ネットワークの活用と総合的学習
 (玉川学園小学部の実践)」

- ・玉川学園高等部----臼井夏美先生(玉川学園高等部教諭)
 「プレゼンテーションソフトを用いた情報教育の試み」

- 12:30 パネルディスカッション
 「コーディネーター集合！」(Think Quest, NECA-J, 他)

(13:00 ~ 昼食)

- 13:30 事例発表
 - ・KIDLINK
 - ・玉川学園女子短期大学----照屋さゆり先生(玉川学園女子短期大学教養科講師)

「Lotusラーニングスペースを利用した
 コラボレーション授業のとりくみ」

- 14:30 基調講演2「情報化社会における感性・心の教育」
 高橋 史朗先生(明星大学教授/玉川大学大学院非常勤講師)

質議応答・諸連絡

- 15:30 エンディングイベント

- 16:00 撤収開始

- 18:00 懇親会(学園内「朔風館食堂」にて)

<教室会場 = 3階, 4教室>

- A・「環境教育を考えよう」(ACE 関東)
- B・「ユニバーサルデザイン」(ACE 関西, MES)
- C・「インターネット探偵団&インターネット探検隊」(ACE 北海道+九州+上越+関東)
- D・「未来の教室を考えよう」(Think Quest, KIDLINK)
 「企業発表」(日本IBM, アスキー、島津理化、アイツウ他)

<その他>

- E・エデュースの森(=ホール前ロビーおよび1階通路)
 ACEと協力関係にある研究団体や協賛企業のブースを展開します。
- F・玉川学園小学部ツアー
 1日に数回ツアーコンダクターによるツアーを予定しています。
- G・こどもの陣地 = 3階廊下
 子どもたちが遊び、学ぶことができる子どもが主役の場を提供します。
- H・玉川学園の購買部のコーナー = ホワイエ
 玉川で有名なはちみつ、アイスクリームの発送や教育関連書籍の販売を行います。

POEM99の余韻もさめやらぬうちに、群馬県で下記のイベントが開催されるそうです。POEM参加組は無理すりゃいけなくもない、という状況ですね。

ネットデイサミットのご案内

このままだと学校の「LAN」は「乱」になっちまいそうだ~というわけで「ネットデイサミットin群馬」を以下のように開催します。学校の情報化はどうあるべきか。また、どのようにそれを支援するか。笑いあり、悩みあり、問題提起ありの、ネットデイと同じ手づくりのサミットです。

天井パネルを外すと、そこは秘密の花壇。ボランティアにしかわからない格別の楽しみが広がっています。

ふるってご参加ください。

(このお知らせは転載自由です。ただし内容は変更しないで下さい)

趣旨

地域ボランティアと学校の先生を中心とした、小中高などの学校に対するネットワーク展開支援全般を称して「ネットデイ」と呼んでいます。

ネットデイという言葉は着実に市民権を得つつあり、各地でネットデイ実施の報告や計画が聞かれるようになってきました。ネットデイが実施された学校はすでに全国で100校以上にのぼっていると見られます。

しかし、そのような活動の横のつながりは希薄で、それぞれの地域で得られたネットデイ実施のノウハウを共有できるようにはなっていません。

そこで、これまで手作りネットデイを実施してきた地域の実状やネットデイ実施ノウハウ等の交換の場として、今年8月8日、群馬県前橋市において「ネットデイサミット in 群馬」を開催いたします。

全国のネットデイ関係者が一堂に集まる催しはこれが初めてです。

21世紀に向けて大きく進展しつつある学校情報化においても、ネットデイは学校と地域を結びつける触媒として、重要な役割を果たすことが期待されます。

ネットデイを受け入れる側の学校の先生、教育委員会の担当者、さらに地域社会においてネットデイを支えるボランティアなど、幅広い人たちの参加を呼びかけます。

名称

ネットデイサミット in 群馬

主催

ネットデイサミット in 群馬実行委員会(委員長=豊橋技術科学大学 奥山徹)

あぶくま地域展開ネットワーク研究会

インターネットつなぎ隊

柏インターネットユニオン

東三河スクールネット研究会

ネットワークサポートセンター in かんさい

日時

1999年8月8日(日) 10:00 ~ 17:00

会場

群馬県社会福祉総合センター(新前橋駅から徒歩2分)

〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町13-12

TEL 027-255-6000

プログラム

10:00 ~ 10:15 開会 実行委員長挨拶

10:15 ~ 12:00 チュートリアルセッション「ネットデイとは何か」

12:00 ~ 13:00 昼食休憩

13:00 ~ 14:30 基調講演 慶應義塾大学教授 村井純氏

14:30 ~ 17:00 本会議(ディスカッション)

18:00 ~ 20:00 懇親会(別会場)

定員 300名

参加費 無料(事前に登録が必要)

<http://www.netday.abu.ne.jp/>(ネットデイセントラル)のページで申し込んでください。

懇親会への参加は有料(5000円)です。

後援(申請中を含む)

文部省 通商産業省 郵政省 財団法人コンピュータ教育開発センター(CEC) 社団法人日本教育工学振興会(JAPET) 通信・放送機構(TAO) 群馬県 群馬県教育委員会 前橋市 前橋市教育委員会 朝日新聞社 読売新聞社 産経新聞社 共同通信社 教育家庭新聞社 日本教育新聞社 日経BP社 『INTERNET

Magazine』(インプレス) 『UNIX USER』(ソフトバンクパブリッシング) 『NEW 教育とコンピュータ』(学研)

協賛

株式会社エヌ・ジー・エス 群馬インターネット株式会社 株式会社アマタマシーンズ 株式会社ジェプロ アライドテレシス株式会社 株式会社ネットワークバリューコンポネンツ 群馬県地域情報化推進協議会 ほか

連絡先

ネットデイサミット in 群馬実行委員会事務局(株)サイエンス・クリエイト

田中能尚、乙部まゆみ

〒441-8113 豊橋市西幸町字浜池333-9

TEL:0532-44-1111、FAX:0532-44-1122

E-mail: office@mikawa.gr.jp

データベース振興センター「教育分野での商用データベース利用推進事業」

荒島 @ 札幌発寒中

財団法人データベース振興センターの「教育分野での商用データベース利用推進事業」が6月14日からスタートした。本プロジェクトDPCに登録されている商用データベースをインターネット(WWW)で利用する。事業規模は当初80校を予定していたが、申し込み校が175校に達した。

1. 利用期間 1999年6月14日 2000年1月31日(予定)
2. 利用可能日 月曜から土曜(休日・祝祭日を除く)ただし、8月10~20日、12月23~1月10日は利用不可。
3. 利用可能時間 月~金 8:00~18:00 土8:00~15:00 DB利用中でも自動切断される。
4. 利用可能DBDPC登録商用データベース

【日経テレコン21】産経新聞,日本経済新聞記事四紙,毎日新聞,読売新聞北海道新聞,信濃毎日新聞,中日新聞,北国新聞,静岡新聞,西日本新聞,中国新聞,琉球新聞,愛媛新聞,南日本新聞,毎日フォトバンク写真記事

【DPC】東京新聞,毎日小学生新聞,毎日中学生新聞,帝国データバンク上場・店頭登録企業概要データ,帝国データバンク企業コード(企業識別コードデータベース),TRS(東京商工リサーチ)企業情報,毎日新聞,全国知事・市長村長情報,阪神・淡路大震災被害記録DialogWeb,QUICK教育用Webサービス,ELISNET,asahi.comperfect,西日本新聞,Nichigei/Webサービス

5. 配付ID数 教師用2、生徒用10
6. 利用規則等
 - ・学校内における教育目的での内部利用に限る(学校外の施設での利用の禁止)
 - ・DBの利用目的,利用方法,利用結果の報告義務。
7. その他

【ブラウザ】

・MS-IE3.01以降 ・Netscape3.01以降

【ハード】

・CPU:Pentium233MHz以上 RAM:64MB以上 OS:Win95,Win98,NT4.0以上

【その他】

- ・EFハイウェイサービス及び町丁別地域データはデータ量が膨大であるため、同時使用する台数は2台まで。
- ・希望配付される翻訳ソフトは“EtoJ School”(LogoVista/カテナ)

の機能限定版。

- ・ヘルプデスクはE-MailとFaxのみに対応。
- ・DPC <http://www.dpc.or.jp> 本プロジェクト <http://educ.dpc.or.jp>

8. 評価

- ・短期間であるが、これだけの商用データベースを無料で利用できることに価値がある。
- ・ただし、データが豊富過ぎて生徒に取捨選択させることは難しい。
- ・特に各データベースの操作方法が種々様々なので、生徒には操作そのものが難しい。
- ・以上のことから時間が限定される授業の中での利用は困難である。
- ・課外活動や長期の研究活動では有効であるかもしれない。

「パソコンを使った インターネットワーキング入門」

主催 道都大学短期大学部 経営科

後援 教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部 ACE北海道)

開催日 7月28日(水) 29日(木)

場 所 道都大学短期大学部 2F コンピュータ室、マルチメディア教室 北広島市中の沢 149 TEL 011-372-3111

参加申し込み 電子メールまたは電話で申し込んで下さい。(電話は講義等でつながらないこともあります。Eメールが便利です)

経営科 由水 伸 (E-Mail: yosimizu@dohto.ac.jp)

野口 光孝 (E-Mail: mnoguchi@dohto.ac.jp)

ねらい 身近なパーソナルコンピュータを使ったサーバ構築を通して、インターネットの仕組み(各種サーバーの目的、用途、相互関係)について理解する。小規模なネットワークの維持管理、意味を理解しながら各種設定ができるようになる。子供たちにわかりやすく仕組みを説明できるようにする。

実習内容

1. DNS サーバ設定
2. www サーバ構築
3. メールサーバ構築
4. FTP サーバ構築
5. Ether カード設定
6. Proxy サーバ設定
7. Ether ケーブルの作成
8. ファイル共有 (NetBEUI、AppleTalk など) の体験
9. Cisco Networking Academy CAI 教材体験
10. ケーススタディ

対象 ・小・中・高等学校の教員

- ・これからインターネット接続に携わる可能性のある人
- ・電子メールを使える人

2日間を通して参加されることをお勧めします

定員 40名以内

参加費用 無料(昼食各自持ち込み)

タイムテーブル

・第1日目 28日

10:00 概要説明(設備、機材、研修会スケジュール)

10:30 NIC取り付け、ケーブル作成、ワイヤリング
サーバソフトダウンロード

12:30 昼食

13:00 Webサーバ立ち上げ

ブラウザインストール

DNS 設定

15:00 メールサーバ立ち上げ(SMTP,POP)

メールクライアントソフトインストール、設定

アカウント登録、メールングリスト体験

17:00 解散(時間あればCisco Networking Academy CAI教材体験)

・第2日目 29日

10:00 FTP 設定、体験

12:00 昼食

12:30 Proxy サーバと、その設定、利用

15:00 ケーススタディ

17:00 解散 移動後懇親会

その他

新しくできたばかりのマルチメディア室(iMac 40台)の見学もできます。明るい雰囲気楽しく展開(する予定?)しますので、ぜひご参加下さい。

編集後記

憑かれたようにものを買ひ続け、ふと虚しくなるのは何故でしょう。きっとそれは本当に欲しいものが身近になくて、つい代用品を買ってるからかも...。1.3KgのG3 PowerBookとかiモード内蔵のPalmOS機とか、完全日本語化のPalmMacPacとか、どうして売ってないんだろう。お願いしますよ、もう。(吉田)

まだ確定情報ではありませんが、アップルさんと協力しての教育セミナーを夏に札幌で、またパパになったむっちゃん村田先生の標茶町との共催イベントを秋に開催できる見通しです。エデュケーションalなあなたの今年後半の予定はもうこれでACEがいただき！詳細決まりましたら追って告知します。さて、そごうデパートでのマルチメディア・バトルの盛況ぶりは本文の通りですが、個人的には参加校のみんなの拙いながらも懸命なプレゼンを頼もしく見ていました。プロフェッショナル指向者がメインの「メディア・ハンティング」とともに、こちらも継続して頑張りたいと思うのでした。(青柳)

来週7/8から7/14の日程で由水先生とアメリカヒューストンに行つて来ます。今回の渡米の目的はシスコネットワークアカデミーの担当教員による第1回世界会議への出席です。いろいろな情報が得られることを期待していますが、帰国後は会議の様を含めてこのニュースレターにも報告したいと思います。(野口)

今年のマルチメディアキャンプ99は、7月10日～11日一泊で支笏湖ボロピナイキャンプ場で行います。のんびり釣りして、カヌートレッキングに疲れたら、羊の丸焼きなんか食べちゃって、見上げれば満天の星じゃないの！いいねえ～。ここは神秘的支笏湖のほとり。共に頑張る仲間たちと、日頃なかなか付き合えない子どもたちと。ビール飲もうや！(雨天時は、厚真のログハウスで行います)(武田)

教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部

1999年6月30日発行

事務局：〒060-8711 北海道札幌市中央区大通西3-6

北海道新聞社 情報開発本部内(担当：青柳・吉田)

TEL 011-210-5801 FAX 011-210-5532